

データをバックアップして、万一の時も業務を止めない

データバックアップソリューションのご案内



N-RAID 5810Mシリーズ <エヌ・レイド>

1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T対応 NAS RAID装置
混在環境でのファイル共有に真価を発揮。**RAID 6対応**製品です。

NAS

5.0TB
実容量(RAID 6時)
2.68TB

10.0TB
実容量(RAID 6時)
5.41TB

15.0TB
実容量(RAID 6時)
8.12TB

20.0TB
実容量(RAID 6時)
10.82TB

30.0TB
実容量(RAID 6時)
16.30TB

40.0TB
実容量(RAID 6時)
21.74TB

50.0TB
実容量(RAID 6時)
27.17TB

最大容量
70.0TB
実容量(RAID 6時)
38.04TB



SafeTANK G3 <セーフタンク G3>

eSATA/USB 3.1 Gen 1対応RAID装置
クライアントマシンやサーバーの外付けに。**RAID 5対応**製品です。

RAID
装置

4.0TB
実容量(RAID 5時)
2.73TB

8.0TB
実容量(RAID 5時)
5.46TB

12.0TB
実容量(RAID 5時)
8.19TB

16.0TB
実容量(RAID 5時)
10.92TB

24.0TB
実容量(RAID 5時)
16.37TB

40.0TB
実容量(RAID 5時)
27.29TB

最大容量
56.0TB
実容量(RAID 5時)
38.20TB

RAID
装置

+

RAID
装置

大切なデータの保管場所にはRAID装置を選びましょう。
バックアップ用にも同じハードウェアで2重化しましょう。

RAIDで高速、大容量、データ消失を最小限に！

ハードディスクは、コンピューターの周辺機器において重要な役割を持ちながら、大きな課題を抱えたデバイスです。一つは他のデバイスに比べて故障が多いこと、もう一つはバスやメモリー、CPUなどの処理速度に比べ、ハードディスクは読み書きの速度が遅いことです。これらの課題を解決する技術がRAID(レイド: Redundant Array of Inexpensive Disk drives)です。RAIDはハードディスクなどの記憶装置を複数用意し、アクセスを分散させることにより、高速、大容量で信頼性の高いディスク装置を実現できます。ただし、RAIDはハードディスクの故障を減らす手段ではなく、故障によるデータの消失やシステムの中断を最小限に食い止める手段であり、ハードディスクによるトラブルがなくなるわけではありません。



NAS

+

RAID
装置

複数台のPCから使用できるように、NASを導入しましょう。
バックアップ先は外付けRAID装置に。

NASを活用して、データストレージを共有しよう！

NASという安価なイメージを持たれる方も多かもしれませんが、これは「Network Attached Storage」の略称。文字通り、ネットワーク上に置かれたストレージ(データを収める箱)の意味です。サーバーの中でもデータ共有に特化したファイルサーバーは広義ではNASの一種になります。各種データの保存や共有、一元管理やバックアップなどの用途にお使いいただけます。製品にもよりますが、世代の異なる各種OSからのアクセスが可能です。複数のディスクを有し、RAID構成、中でも高機能なものはRAID 6の構成が可能な製品があります。また多くの場合、バックアップ用のソフトが用意されており、NAS上での設定で完結できる仕組みが多いため、サーバーよりもハードルが低くお勧めです。



NAS + NAS

NASの障害時でも共有できる作業環境を維持するためには、NAS to NASでバックアップをしましょう。



NAS to NASのバックアップで、業務停止を短時間に！

バックアップは安心感を得るだけのものではありません。

実際に、データを収めている場所が使用できなくなった際に、どのように業務を行い、元の環境に復旧できるかまでを想定し、備えを行う必要があります。業務においてデータの共有が必要な場合には、バックアップしたデータも共有できる場所に置く必要があります。フォルダの構造もあわせたバックアップを取っておけば、不測の事態の際に、バックアップ用をデータ用として使い、修理が終わったデータ用を今度はバックアップ用に利用するといった入れ替えを行えば、業務の停止は最小限で済みます。そのためには、データ用とバックアップ用に同じNAS製品で運用することが必要です。

NAS + NAS

備えあれば憂いなし、3重化でデータを守りましょう。

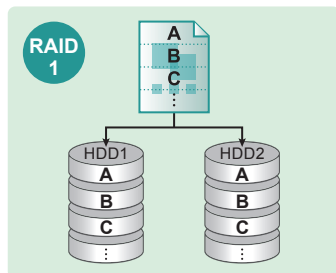
+ RAID 装置



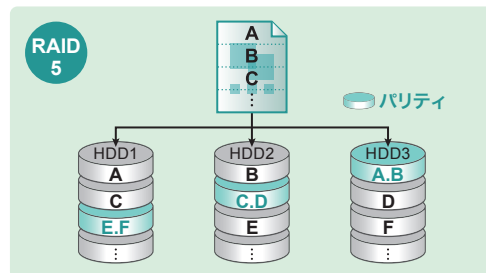
データを守るために

- 多重化(二重化より多重化)がお薦め
物理的に異なるハードウェア(もしくはメディア)に保管データを移した後に削除する場合、一時的に3重化をしてください。
- バックアップのチェックが重要
スケジュールで自動設定していても、ログ等は日々チェックをしてください。
- サーバーの管理者を決めましょう
誰の責任でもない状態が危険です。詳しい詳しくないは適任者か否かの基準のひとつに過ぎません。

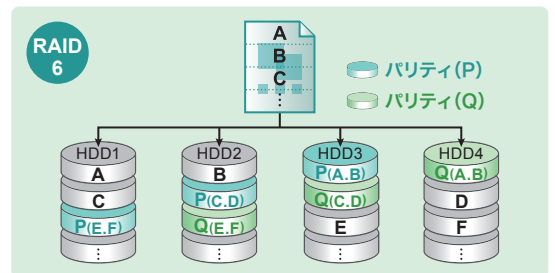
RAID構成の違いについて



RAID 1
RAID 1は「ミラーリング」とも呼ばれ、2台以上1組でハードディスクを利用する機能です。データ保存に使用できるディスク容量はRAIDを構成するディスク1台分になりますが、大切なデータの保存に最適な手段のひとつです。



RAID 5
RAID 5は最小構成単位が3台のシステムで、複数のハードディスクにデータを分散して保存します。それぞれのハードディスクには、データ以外に「パリティ情報」と呼ばれる内容も記録されます。パリティ情報は、ハードディスクの障害により、データの一部が消失してもデータを復元するための情報が格納されています。データ保存に使用できるディスク容量は、総容量から1台分が引かれます。データの分散で読み書きの高速化もできます。



RAID 6
RAID 6は最小構成単位が4台のシステムです。それぞれのハードディスクにはデータ以外に、異なる2つの「パリティ情報」と呼ばれる内容がそれぞれ異なるディスクに記録されます。パリティ情報を2つ全てのドライブに記録しているため、同時に2台のハードディスクが故障しても、パリティ情報から正常なデータに復元できるようになり、RAID 5より更に安全にデータを保管できます。データ保存に使用できるディスク容量は、総容量から2台分が引かれます。

● ご相談やお見積もりは、お取引のある販売店か当社営業部(078-646-7303)までお問い合わせください。



ヤノ販売株式会社

〒653-0836 神戸市長田区神楽町2-3-2 東洋ビル東棟2F Tel. 078-646-7303(営業) Fax. 078-646-8982
E-mail: info@yano-sl.co.jp Web: www.yano-sl.co.jp